

# 平成24年度第1回富士見市市民参加及び協働推進市民懇談会会議録

○日 時 平成24年5月14日（月） 午後7時00分～9時00分

○場 所 市長公室

○出席者

- ・市民懇談会委員 岩田委員長、島谷委員、清水委員、高橋委員、有賀委員  
池田委員、野崎委員、吉原委員
- ・事務局〈協働推進課〉 栗原課長、吉岡副課長、水口主査

○欠席者

- ・市民懇談会委員 小寺委員

○傍聴者なし

内 容
<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 岩田委員長</p> <p>3. 議 題</p> <p>①副委員長の選任について</p> <p>副委員長であった 河原井委員の逝去に伴い、富士見市市民参加及び協働推進市民懇談会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、互選をお願いした。委員から推薦があり、島谷委員が就任することになった。</p> <p>島谷新副委員長あいさつ</p> <p>(報告事項)</p> <p>①平成23年度審議会当の開催状況及びパブリックコメントの実施状況について</p> <p>事務局：資料に基づき報告の説明を行った。</p> <p>委員：会議録の公開方法や審議会開催の事前公表期間など、会議によってばらつきがある。公表が2か月前のものもあれば1日前のものもある。統一性がないし、市民参加の目的がなしえないのではないか。また公表方法が、HPのみのものもあれば、複数個所でやっているものもある。基準があると統一されていいかと思うが、これらについては事務局としては</p>

どう考えているのか。

事務局：審議会開催とパブコメの実施については、マニュアルがありそれにそってこれらの事務を各担当課に進めてもらっているが、マニュアルには公表方法や公表期間などが具体的に示されていない。自治基本条例の目的を果たすためにも、職員の意識や手順の事務が全庁的に統一されたマニュアルになるようにしていきたい。このことは、5月下旬に開催する庁内委員会において協議したい。

委員：審議会によっては、会議録の掲載がかなり遅いものがあり、次回の審議会に間に合わない場合がある。また、パブリックコメントの意見募集の結果も、もう少し早目の公開をしてもらえると、様々な関係する策定会議や検討委員会において、参考になるのではないかと。

事務局：貴重なご意見として受け止める。

委員長：パブリックコメントについては少数であり、市民の関心がないのか少しでも多く意見がでるようスケジュールを工夫する努力をしてほしい。

## ②平成24年度審議会等の公募委員及びパブリックコメントの募集予定について

事務局：資料に基づき説明を行った。

委員長：これら予定については各審議会とパブコメの概要も添えてもらえるとわかりやすい。どのようなものなのかを優しい言葉でわかりやすく表現してもらえると市民が関心を持てるのではないかと。

事務局：次回までの課題とする。

委員長：パブコメの中身はいい意見が有る場合がある。また、市も広く意見を聴こうとする意識があり、適切に親切な回答をしていると感じているしこれから意見が増えることに期待はしている。しかしながら募集意見が少ないのは広報等の周知徹底がなされていないのか。本当に必要な意見というのは、雑談の中にある。相手が行政だと思えば、構えてしまう部分があり躊躇している部分があるような気がする。

委員：街中の井戸端会議ではいいアイデアや意見がでてくる。これをかしまって難しい文書にするとなると、気持ちが遠ざかってしまうようだ。

事務局：今後の課題とする。

委員：各審議会の委員についてはどのような観点で構成しているのか。以前よりも引き受けている団体が細分化されているようなところがあるのでHP等に掲載してほしい。

事務局：各審議会と推薦団体とどのような関係があるのかから調査をしたい。各審議会は、概要や委員名簿をHPで公表しているが、委員名簿には関係所属団体を掲載しているところとそうでないところがあるので、今後、統一を図りたい。

(協議事項)

①市民活動支援のあり方について

- ・相模原市協働事業提案制度について

事務局：資料に基づき事務局から説明を行った。

事務局：今年度のこの市民懇談会は、市民参加・協働のまちづくりを推進するための具体的な方法として、富士見市の協働事業提案制度のガイドラインを作成することを目標とさせていただきたい。ひとつのモデルを検証し、いいところとそうでないところを検証するために皆さんの協議が必要。そこで先進地である相模原市協働事業提案制度の資料を用意させていただいた。今日は制度の要綱についての協議をお願いしたい。

委員長：全22条という内容の中では、周知に関して徹底しており、わかりやすく説明してあるが、市民が提案の提出様式を作成するとなると、書き慣れない者はかなりの苦労がある。誰もが参加しやすいものを作るべきである。

委員：アイデア提案については、誰でも個人でできそうでとてもいいと思う。推進委員会という組織があるが、提案にはどの程度まで支援をしてくれるのだろうか。

事務局：成案化から事業化までの一連を支援している。そのために事業のエキスパートである課長職5名が推進委員になっているようだ。

委員長：新規提案についてはぜひ歓迎したほうがよい。

事務局：新規提案も既存を加工した提案なども、様々な提案が出されると良いものが見つかるのでは。

委員長：NPO団体を育ててまちづくりを推進していくような内容があってもよいのではないかと。NPO設立の呼び水になると思う。

委員：子育てしているお母さんが気軽に提案できるように、メモ用紙で提出ができるとういと思う。

委員：個人で出すアイデアと事業を結びつけコーディネートしてくれる職員が必要である。

事務局：市民が気軽に提案できる受け皿となる部署があるとよいのではないかと。

委員：予算はどうなるか。いいものは全て予算がつくのだろうか。その年によって提案数の増減があると思うが。

事務局：提案したものは、翌年に事業化される。審査会を通過し市が承認したものが予算化されるので、計画的な予算付けにはなる。

委員：今まで事業化されたものはどんなものがあるか。

事務局：平成23年度に実施された相模原市の例を読み上げる。

委員長：どこでもやっているようなものやおもしろいものがあり、やはり気軽な気持ちでアイデアをたくさん出すことが大切だと思う。市民の楽しみに繋がる。

事務局：成熟した社会を目指すためにも、市政への参加を進めるきっかけを作り

たい。

委員長：予算は寄付を併せて使うことができないか

事務局：ひとつの方法としては良いと思うが、まずは提案制度の基盤を作り、完成実施後の課題としたい。次回は募集要領について協議したいので、宜しくお願いします。

(その他)

①平成24年度のスケジュールについて

・平成24年度市民参加・協働推進スケジュール（案）

事務局：資料に基づき事務局から説明を行った。

次回の会議日程について、平成24年7月10日（火）を予定した。

4 閉 会 島谷副委員長